

赤ちゃんと同じ重さのコメを内祝いに。県産米のネット販売や農家との交流を手掛ける「こめたび」(鈴木絵美社長、秋田市山王)が秋田のコメを使ったギフト商品を販売している。赤ちゃんの出生体重と同じ重さを内祝いに贈れるほか、三合程度の少量から五キまで自由に重さを選べるので、引き出物、お中元、お歳暮とさまざまな贈答に利用できる。包装に本物の稲穂をあしらうなど見た目にもこだわった。ちょっと珍しい「おコメギフト」の評判は口コミで伝わり、県内外にじわじわと顧客を広げている。

秋田市の「こめたび」

秋田のコメを プレゼントに

「形に残らないけれど役に立つ物、もらった人がうれしい物」と思って選んだ。こう話すのは秋田市の会社員加藤陽さん(三三)。昨年一月に長女璃子ちゃんが生まれ、内祝いをどうするか夫婦で悩んでいた時に「おコメギフト」を知った。早速、璃子ちゃんの出生体重と同じ重さのコメを知人や親族に贈ったところ「こんな内祝いは初めて」「おいしかった」と喜んでもらえた。

コメは身近な存在だけれど「内祝いや引き出物に」という発想は意外。利用者が増えていることについて、鈴木さんは「主食でもあるし、愛情いっぱい育てられたコメはカタログギフトと違った良さがある。生まれたばかりの赤ちゃんと同じ白いコメのイメージもぴったりなのは」と語る。コメを作るのは県内七人の契約農家。アイガモ農法、自ら開発した「微生物肥料」による自然循環型農法など、それぞれ工夫を凝らした稲作に取り組んでいる。

内祝い、引き出物、お中元、お歳暮…



包装にもこだわりがある。内祝いとしての利用が多いコメ四百五十キ(三合程度)

包装にもこだわり

パッケージは、茶色の紙袋にのしと赤いリボン、さらに稲穂をあしらって米どころの雰囲気伝える。赤ちゃんの体重と同じ重さのコメを贈る場合は産着を思わせる白い木綿袋に入れ、やはり稲穂をくくり付けて送る。五個以上の注文には、要望を聞きながら赤ちゃんの写真やメッセージを入れたオリジナルカードを作成している。

県内外で人気じわり

「秋田に住むわたしたちが当たり前と思っているものに、県外の人たちが感動する場面を何度も目にした。珍しいものではなく自分たちが持っているものを掘り起こしていきたい」。コメを通じて秋田の良さが伝わる商品と日々思いを巡らせている。問い合わせはこめたび0120・0533・3155



お米ギフトを手にする鈴木さん

セット

内祝い用のコメ(三合程度)と「白山水」のセット